2012年度報告書（研究員）

氏　名	長坂　康代
職　位	GCOE研究員

研究概要

ベトナムの首都ハノイの旧市街には、国家が管理する宗教施設が点在しているが、市場主義経済への転換に伴い、近年、こうした宗教施設への力点の置き方が国家による再興、重点管理へと移行し、史跡管理と文化財の保護・育成・再編を急いでいるのが現状である。

都市の宗教施設管理や文化財保護あるいは観光化による都市振興をめぐって、小家族の内部空間から飛び出し、街の知識層たる店主たちが宗教的寄り合いと茶サロンを基軸にして、意見を交し合う文芸的公共圏を創り出し、行政と接点をもって政治折衝するひとつの原論市場をつくっている。しかも、亭の将来管理計画をめぐり、行政の計画に対してある部分自分たちの意見を通している。

この社会的共同性を評価し、これに注目して、この民衆共同が政治的公共圏にまで成熟していくものかについて、2012年8月～10月に調査・研究をおこなった。

そこから、公権力の領域から降りてくるばかりと捉えがちだったベトナムの公共圏設定に、私人の領域からの公共圏創造に向かおうとする動態があることを捉え、ベトナム社会で民衆知の教養から、少なくとも、私的領域で公共圏を作りだす芽と実際の動態があることを確認した。

業績リスト（著書、論文、報告、その他に分けて主要なものを記入する）

2012年度の業績

論文

2013.3「ベトナム・ハノイの民衆が創出する都市の公共性―宗教施設「ハビ亭」での同郷会の活動を事例にして―」黄蘊編著『交錯する親密性と公共性』京都大学出版会（印刷中）

その他（発表）

2013.1.26「ベトナム・ハノイの都市民衆による互助と協力―ハンホム通り「ハビ亭」をめぐる公共圏の構築について―」東南アジア学会関東例会

2013.3.30「ベトナム北部の米食文化―首都ハノイを中心として―」第24回雲南懇話会